

### 恒星黒点

恒星の表面が一様でないことは、A型特異星・磁変星などでよく知られたことであるが、赤色矮星であるフレア星にも顕著である。ただ、観測される非一様は地球でいえば大陸なみの規模なので、ほくろの如き太陽黒点と同一視してよいか問題である。D.J. Mullan (Ap. J. 192, 149, 1974) は黒点は大きな対流のセルであるという彼の説に立って、フレア星の表面磁場は  $2 \times 10^4$  ガウス (太陽黒点の10倍程度)、温度は  $1600^\circ \sim 1900^\circ$ 、ひろがりや表面の経度緯度で  $50^\circ$  くらいで、観測とも話が合うとした。磁場の存在にともなうアルフヴェン波でのエネルギー流失を軸に太陽黒点理論の再検討がなされている現在、恒星黒点を同時に考え合わせることは大変有意義であろう。岡山天体物理観測所におけるフレア星の観測はますますエンカレッジされる。(海野和二郎)

### 力なし磁場があげれる

圧力と張力の釣合った磁場をフォースフリー磁場という。太陽表面磁場はこの無働カ磁場で近似されることが多い。(くわしくは田中捷雄, 天文月報 67, 121, 1974)。アメリカ天文学界の秀才 E.N. Parker は最近再び太陽磁場研究にとりつかれたらしく、その一つとして無働カ磁場の基本的性質を論じている (Ap. J. 191, 245, 1974)。これによると、無働カ磁場を横から押しちぢめると一層ぴんと張った無働カ磁場を得るが、逆にふくらせると張りが無くなってくずれてしまうという。光球から上ってきた磁場がつくる活動領域の休みない、時には爆発的な変化は、こうした磁場自身の性質に由来すると考えられる。天体磁場形態学は理論的にも新生面の開拓が行われつつある。(海野和二郎)

### 春季年会について

今春の年会は5月27日(火)から30日(金)までの4日間、東京大学理学部2号館(本郷構内・赤門脇)講堂で開催の予定となりました。

講演申込みについてはすでに2月号でご案内してありますように『〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 東京天文台 中桐正夫』あて3月10日までに必着するよう、規定の申込み用紙を用いてお送り下さい。

申込み用紙の請求、旅費の補助については2月号を御参照下さい。なお今春の申込締切は例年より2週間程度早いので特に御注意下さい。

### 故神田先生の御遺族よりの寄金について

昨年7月29日本会名誉会員神田茂先生がおなくなりになり、本会としては天文月報9月号に訃報、11月号に追悼記事の特集、葬儀には齋藤理事長が参列し、弔意を表しました。御遺族から先生の生前の御意志に沿って、アマチュアのために用立てて欲しい旨の趣旨を添えて本会に20万円の寄付の申出がありお受けいたしました。使途については理事会において検討中です。

### 訂正とお詫び

本誌68巻2号(1975年2月号)53頁表1の見出しに誤りがありましたので訂正します。

53頁 表1 見出し 1967(?) → 1976(?)

☆

☆

☆

1974年12月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	0,	0	6	1,	3	11	—,	—	16	2,	28	21	4,	16	26	1,	2
2	—,	—	7	0,	0	12	1,	20	17	2,	13	22	3,	8	27	1,	2
3	0,	0	8	0,	0	13	2,	23	18	3,	14	23	3,	12	28	2,	7
4	0,	0	9	0,	0	14	4,	19	19	4,	11	24	2,	7	29	—,	—
5	1,	4	10	—,	—	15	—,	—	20	4,	19	25	1,	2	30	3,	9
(相対数月平均値: 19.2)															31	2,	13

昭和49年2月20日

印刷発行

定価 300 円

編集兼発行人

印刷所

発行所

〒181 東京都三鷹市東京天文台内

〒112 東京都文京区水道2-7-5

〒181 東京都三鷹市東京天文台内

電話武蔵野 31局 (0422-31) 1359

森 本 雅 樹

啓文堂 松本印刷

社団法人 日本天文学会

振替口座東京 13595